

## 第1章 調査の概要

### 1 - 1 . 本調査の趣旨

我が国を取り巻く社会経済情勢が大きく変化する中、地方公共団体においては、厳しい地方財政の中で地域課題に的確に対応した行政運営を図るため、行政自身が政策立案能力を向上させるとともに、自ら考え、学び、行動する住民の育成と地域の自治への主体的参画を推進していくことが求められている。

こうした中、公立図書館には、行政や住民の自立的判断を支える情報提供施設としてより多様かつ高度な社会ニーズに対応することが求められており、特に資料収集や検索に関する専門的知識・技能を有する司書が果たす役割は一層重要になると考えられる。

このため、本調査では、公立図書館に勤務する司書有資格者の勤務実態や司書資格取得経緯など、その実態を広く把握するとともに、全国で実施されている司書・図書館職員の研修事例を収集・分析し、実施上の工夫や配慮点、課題等を整理することにより、司書の資質向上を図る上での司書資格のあり方や司書研修・養成方策等を検討する際の基礎資料とすることを目的として実施したものである。

### 1 - 2 . 本調査におけるポイント

本調査における主なポイントは以下の3点である。

#### **視点1 資格取得や採用等に係る経緯など、司書有資格者の全国的な実態を明らかにする**

司書資格を有する職員の採用方法や配置・待遇等は地方公共団体によって様々であるため、全国の公立図書館に勤務する司書有資格職員を対象として、司書資格取得経緯や勤務実態、採用・配置の経緯等について広く実態を調査し、全国的な傾向を把握した。

#### **視点2 図書館業務における司書の役割を、職員側と行政側の両視点から捉える**

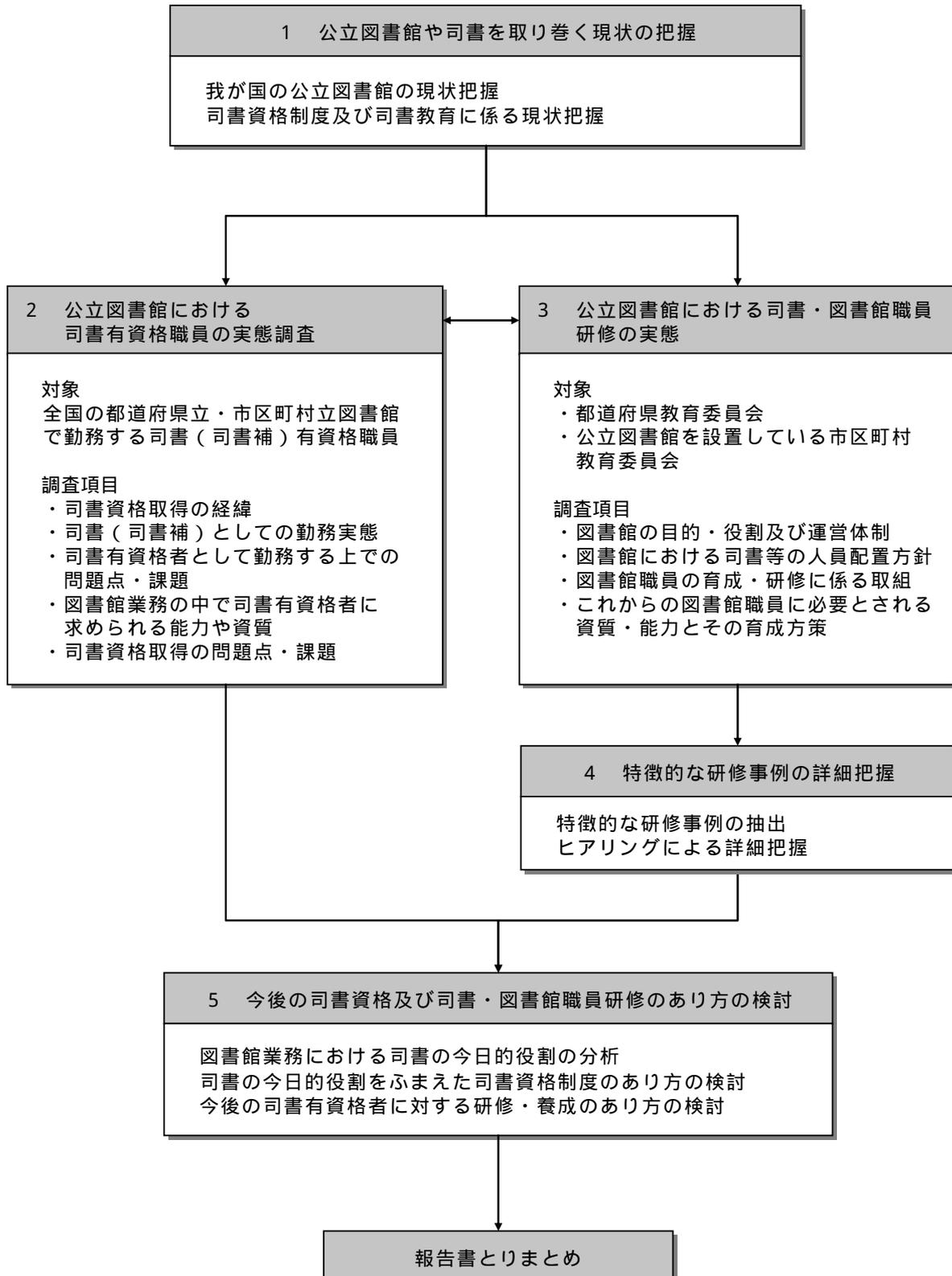
厳しい地方財政を背景により効率的な図書館運営が求められる中で、多様化する図書館サービスに対するニーズに的確に答えていくためには、専門職としての司書が図書館業務において果たすべき役割や存在意義を改めて明らかにする必要がある。このため、図書館業務における司書の今日的役割について、司書有資格者と運営主体である教育委員会のそれぞれの視点から捉え、人材育成上のポイントを整理した。

#### **視点3 司書に求められる能力の育成や資質向上に資する司書資格のあり方を検討する**

上記の各視点に基づき把握された全国の司書有資格者の実態と司書に求められる今日的役割をふまえた上で、図書館職員や専門職員としての司書に求められる能力・資質とは何かを明らかにするとともに、それらの能力や資質の向上に資する司書資格のあり方や図書館職員の研修・養成のあり方等について整理・分析した。

## 1 - 3 . 本調査の流れ

本調査の流れは以下のとおりである。



## 1 - 4 . 本調査の実施体制

本調査の遂行にあたっては、公立図書館における司書の全国的な実態把握を行うとともに、研修の充実に資する事例集を作成する上で、調査項目や事例抽出等について具体的かつ専門的な知見を得るため、学識経験者や司書・図書館職員の研修に精通するものからなる調査研究委員会を設置した。

図表1-1 調査研究委員会の委員概要

委員	氏名	所属等
<委員長>	葉袋 秀樹	筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 教授
<委員>	井上 玲子	我孫子市教育委員会 社会教育部 次長
(五十音順)	三谷 久子	大阪府立中央図書館 司書部長
<事務局>	文部科学省生涯学習政策局社会教育課 財団法人 日本システム開発研究所	

平成 19 年 3 月 31 日まで

